

## 学力格差

2022. 6. 30

学力が高い県というと、秋田や福井という県名が出てくる。これは、もう何年も前から変わらない。以前、秋田県に仕事で行ったことがある。秋田の学力の高さの秘密を探るためである。

現在行われている全国学力・学習状況調査は、2007年から始まった。実は、昭和30年代頃、1956年から1966年にも中学校を対象に、当時の文部省による全国中学校一斉学力調査が実施されていた。その都道府県別平均値を見ると、今とは大きく様相を異にする学力地図になる。

福井、富山など北陸勢が高学力を示している点は現在と共通している。当時は、東京、大阪など大都市圏を含む都道府県の成績が軒並み高かった。下位に並んでいるのは、東北各県と北海道そして九州の一部の県である。都道府県の経済水準と密接に結び付いた形である。学力の地域間格差が存在した。しかも、都道府県間の学力格差は、現在とは違って桁違いに大きかった。最上位と最下位の幅は20ポイントと、極めて大きい。

現在の全国学力・学習状況調査では、都道府県間の学力格差は、驚くほど小さくなった。順位をつけると、40位代には目がいってしまうが、それほど大きな差があるわけではない。各都道府県の学力水準と一人当たりの県民所得の相関もほぼゼロになった。

約40年ぶりに、全国的な学力調査が再開され、1位に輝くのは、どの都道府県かと思いきや秋田県だった。この結果は、かなり話題になった。同じようなことが世界的な学力調査でも起きた。トップになったのがフィンランドだったからである。それからというもの視察という名のもとに、秋田詣、フィンランド詣が始まった。

秋田県には探しても秘密はなかった。全国的な学力調査が行われていない40年の間に、地道な取組を続けてきただけである。だから、秋田の先生に聞いても、「特別なことは何もしていませんが」となる。

秋田県が長年にわたり取り組んできたことは、他の県でも福島県でもできることが多い。ただし、他の県と秋田との違いがあるとすれば、秋田には取組が根付いているという点であろう。その証拠に、他の都道府県が順位を上げようと躍起になっても、毎年、最上位グループには秋田の名前がある。その位置は揺るがない。

学力を上げるための即効薬や特効薬はない。日々の地道な取組の成果がじわりじわりと表れてくるのが学力であろう。先生方が、自分の授業をもっとよくしよう、もっともっとわかる授業をしたい。そのような意識や意欲を持続することが重要となる。そのための手立ては秋田でも福島でも、そう変わるものではない。

学力の地域間格差がなくなってきたことはいいことである。さらに学力格差を小さくできるかどうかは、先生方の手腕にかかっている。